

第4次中期目標達成状況評価(案)について

目標	評価・コメント	意見者	意見	指定管理者からの回答
	A			
1 在宅復帰率	疾患全体は84.1%であり、ほぼ目標(疾患全体85.0%以上)を達成した。 各項目を見ると、脳血管系は目標に届かなかったものの、脳血管系以外の項目は目標を達成していた。令和2年度は、患者が最も望んでいる早期の在宅復帰に向けて努めていただきたい	山口委員	①脳血管系の在宅復帰率が前年と比べて大きく減少した理由	今後の改善点の箇所にも記載しましたが、病院全体での退院先割合が、前年度比で自宅▲5.3%、老健+2.3%と変化しています。近隣に老健が増えたことが原因なのか、はっきりとした理由はわかりませんが、この変化の原因を分析するため、引き続き2020年度の傾向を注視していきます。
	S			
2 市立リハビリ病院へ入院してから退院するまでの日数	疾患全体は84.1%であり、ほぼ目標(疾患全体85.0%以上)を達成した。 疾患全体は78.6日であり、疾患全体の目標(79.0日以下)は達成した。 来年度も引き続き目標達成を行っていただきたい。			
	S			
3 リハビリテーション効果(FIM)	疾患全体は23.4であり、目標(18.0以上)が十分達成した。 各項目をみると脳血管系24.9、整形外科系23.4、廃用症候群17.7と高い水準で達成できていた。次年度も引き続き質の高いリハビリテーションの提供を期待する。			
	S			
4 入院患者満足度	全項目において目標が十分達成されていた。 今後も、入院患者の満足度を維持していただきたい。			
	S			
5 外来患者満足度	全項目において目標が十分達成されていた。 今後も引き続き質の高い外来リハビリテーションを提供し、満足度を維持していただきたい。			

6 訪問患者満足度	S			
	全項目において目標が十分達成されていた。今後も引き続き質の高い訪問リハビリテーションを実施し、高い満足度を維持していただきたい。			
7 病床稼働率	S			
	実績は96.5%であり、目標(95.0%以上)を十分達成した。 質の高いリハビリテーションを行うとともに、急性期病院からの紹介患者の確保に努めた結果、高い稼働率を維持できた。今後も引き続き、同様の取り組みを行っていただきたい。			
8 経常収支比率	A			
	実績は102.9%であり、目標(103.0%以上)とほぼ達成した。 経常利益も前年度から上昇しており、収入の確保や費用の削減に努めていたものと評価できる。引き続き健全な病院経営を維持していただきたい。			
9 全職種に対する教育プログラムの実施	S			
	新型コロナウイルス感染症による影響を除き充実した教育プログラムが実施されていた。今後も患者に選ばれる病院であり続けられるよう、次世代を担う人材の育成に取り組んでいただきたい。	赤井委員	①WEB等を利用した研修やコミュニケーションの方法を考える必要があると思われます。 改善点でも触れられていますが早期の対策が望まれます。	講義形式で行っていた研修をオンライン形式で受講できる仕組みにしたり、動画を作成し、それを共有サーバー上で閲覧できるようにしたりと工夫を行っています。 実技などの教育に関しては、全員がマスク必着、窓を開けたり人数制限を行いながら3密にならないよう十分な配慮をしたうえで最低限の開催としています。
		山口委員	②(令和元年度のコメントではありませんが)本年8月に発生した新型コロナウイルスの院内クラスター発生の教訓をすべての従業員で共有して、再発防止に努めていただきたい。特に、これからインフルエンザとの同時流行の不安がある時期を迎えることから、細心の注意を払って院内感染防止に努めていただきたい	現在、保健所の指導により職員の手指衛生の徹底、患者および職員のマスクの着用、入院患者さまの体調管理等の感染対策を徹底しておりますが、改めて再発防止に努めてまいります。

10 継続的なリハビリテーションサービスの提供体制の構築に努める	S			
	退院後も外来・通所・訪問リハビリテーションサービスを実施するとともに、地域リハビリテーション関係者の紹介・相談・助言を行うなど、退院後の継続的なリハビリテーションの実施が促されていた。今後もこれらの取り組みを続けていただきたい。	山口委員	①「行政の行う事業にも積極的に参加し」、リハビリの重要性を多くの市民に理解していただくと同時に、市立リハビリ病院の知名度向上に努めていただきたい	感染対策を徹底したうえで、市の行うイベント等の事業に積極的に参加するなど努力していきます。
11 地域住民との良好な関係を築くよう努める	S			
	市民公開講座、患者家族教室やロビーコンサートなどを開催していた。今後とも地域住民が参加できる催しなどを開催するとともに、日ごろから地域との交流に努め、地域の方が親しみやすい病院運営を通して地域リハビリテーションの普及啓発に努めていただきたい。	赤井委員	①コロナ禍での交流方法について再考が必要と思われます	ほとんどの地域活動は現在行えない状況にある中で、クラスターも発生しました。まずは感染対策を徹底して安全・安心にリハビリテーションを提供すること、それにより地域住民の皆様からの信頼を取り戻せるよう努めてまいります。
		山口委員	②主に健康な市民が参加する市民公開講座も重要を考えるが、老人ホームや身近な公民館での公演やリハビリ教室を通して、リハビリの重要性を広く市民に理解して頂くことも重要と考える。	今年度は新型コロナウイルスの影響で行えておりませんが、昨年度は認知症カフェや、船橋市のリハビリ職等派遣支援事業、足腰の衰えチェック事業にも積極的に参加してきました。今後も感染状況をみながら、上記のイベントには積極的に参加し、船橋市の目指す地域リハ啓発活動に寄与したいと考えています。
地域リハ充実費についての実施計画（案）について				
意見者	意見			指定管理者からの回答
山口委員	①令和2年度では、令和元年度の実績を基に、「先進リハビリ機器の紹介」の項目が削除されている。実績が無かったためと考えるが、市立リハビリ病院の役割一つとして、「先進リハビリ」の推進も重要なテーマと私は考えており、ハード、ソフト両面で今後とも「抜きん出たリハビリテーションサービス」の実施に向けての努力をお願いしたい。			ハード面としてのリハビリ機器の導入や、教育研修の充実などのソフト面の両方を向上させることで、リハビリテーション病院の先駆けとしてリハビリテーションの底上げを図ってまいります。

事業報告書やその他資料を通して、意見・質問等があれば記載ください

意見者	意見	指定管理者からの回答
赤井委員	①新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ご苦労されているかと思いますが、新しい生活様式が模索される中、リハ病院としてのあり方も少し改善の余地があるのではと考えています。	現在検討しているのは、リモートでの患者面会、リモートでの医師面談など。リハビリ実施中も可能な限りマスクをして頂きます。入院前14日以内に発熱があれば原因がわからない限り受け入れしない。37度以上の発熱があれば原因がわからない限りその日はリハビリを中止など、今まで以上に感染対策に注意を行っています。
吉田委員	②急性期医療機関への要望があれば教えてください	入院前14日以内に発熱があり、入院申込書や診療情報提供書にその理由が記載されていなければ、すぐに入院受け入れを決定せず、一度理由をお伺いするという、今までになかったワンクッションが入ります。一度クラスターが発生した病院でもあり、保健所の指導の元、このように厳重に確認をしておりますことご理解頂き、当院へご紹介頂ければ幸いです。
	③自宅で生活される患者さんが使う施設など、地域ある施設との連携を行う中で、今感じることがあれば教えてください	当院でクラスターが発生したことが理由で、当院の通所リハを利用していた患者さまが、他の事業所の通所介護を断られたという事例がありました。クラスター終息までに1か月半かかり、その間、外来リハ、通所リハ、訪問リハの利用者さまにはリハサービスを提供できずご迷惑をおかけしました。このような場合に他事業所において通所の頻度を増やして頂いたケースもあったかと思いますが、逆に利用を断られるという残念なケースもありました。地域の中で、風評被害を助長するのではなく、患者さま・利用者さまに不利益にならないような状況になれば良いと感じます。
	④質の高い治療の提供ありがとうございます。	今後も質の高いリハビリテーションの提供に努めてまいります。

赤石委員	⑤目標9、10の評価ですが、取組実施の状況が各年度の行動計画以上の事業を実施した場合、評価は「S」となりますが、行動計画以上の事業はどの資料で確認できますか。	<p>【事務局より回答】</p> <p>行動計画は資料7 中期行動計画に記載がございます。</p> <p>目標9については、行動計画には「全職種に対する教育プログラムの実施」との記載がありますが、資料1別添2の研修実績をみると年間を通じて研修を行っており、行動計画以上に職員のスキルアップ等に力を入れていると判断したため評価（案）を「S」とさせていただきます。</p> <p>目標10については、行動計画には、「継続的なりハビリテーションサービス提供体制の構築に努める」との記載がありますが、資料1別添8に記載されている退院前の家庭訪問により、リハビリテーションの環境整備の重要性を説くことや、無料の退院後のフォローアップ外来を引き続き実施していることから、計画以上の取組がなされていると考えられるため、評価（案）を「S」とさせていただきます。</p>
------	---	---

山口委員	<p>⑥P15：「(8) 病床平均稼働率及び4床室・個室の利用者数」： 2床室の稼働率が極端に低い、何か対策あるいは有効活用はできないだろうか。</p>	<p>2床室は間取り・構造上、2床室として稼働しづらい環境ではあるため、ここを2床で使用するのは他の病床が満床の時です。病床数が196床を超えたときにこの2床室に2人入院することになります。196床を超えることがほとんどないため、低稼働率となっています。</p>
	<p>⑦P16「外来患者」 外来患者が前年と比較して、約10%減少している。その理由は何か？また、その対策は？</p>	<p>外来リハは実患者が▲87人、延べ患者が▲1,096人。 通所リハは実患者が+15人、延べ患者が+463人。 併せると実患者が▲72人、延べ患者が▲633人。 医療保険の外来リハから介護保険の通所リハへの移行を積極的に行ったことが一因ですが、それ以上に外来患者が減っているのは、周辺に通所リハ事業所が増えたことが理由と考えます。今後は、営業活動で紹介を増やしていきたいと考えます。</p>
	<p>⑧P8：「④地域会議への参加活動」に関して 地域包括ケアシステムの構築のため、また市立リハビリ病院の知名度向上に向けて、積極的な「地域会議」への参加をお願いしたい。市立リハビリ病院の実力を示す絶好の機会と考える。</p>	<p>今後も多職種の集まる会議等に参加することにより、継続的なリハビリの提供ができるよう、地域リハビリテーションの推進や地域包括ケアシステムの構築に努めてまいります。</p>
	<p>⑨P39-40：「目標7：病床稼働率」に関して 今後回復期リハビリ病院が近傍で1000床近く増床される事に衝撃を覚える。現在の病床稼働の維持を懸念されるお気持ちは十分にわかるが、①P13「年齢別・男女別入院患者内訳」をみると、70～89歳の間で約65%を占めていること、一方団塊の世代の高齢化（2020年での年齢が70～73歳）の現状及び②人口約110万人の東葛南部地域を支える三次救急病院をして急性期医療に力をいれている「船橋市立医療センター」との強力な連携、また、医療センターの将来の海老川上流地区移転計画と関連して設置予定の新駅による利便性向上に伴う患者数増加を考慮し、輝生会の全面的なバックアップ体制のもとで、今後とも「船橋地域の中核リハビリ病院」としての役割を果たし続けていただくことを希望する。</p>	<p>ご期待に添えますよう、努力いたします。エールを頂きありがとうございました。</p>
永井委員	<p>⑩重症患者の積極的な受け入れにより、経験値も上昇し結果的に患者満足度につながっていると思われます。病床稼働率については、改善するための方策が実行され、各医療機関との連携の為に活動や努力の成果と言え、評価が高いと思います。</p>	<p>ありがとうございます。今後とも、努力してまいります。</p>